

審査委員長の講評

6作品はそれぞれ新しい考えを導入し優れた作品でした。

二次審査の後に審査委員で議論を繰り返した結果、22番を選びました。

最も優れた技術提案で総合的に優れている点や取組体制等を評価しました。

「静岡県の公共建築はできる限り県産材を使う」という県の方針がありますが、図書館としての構造耐火や経済性から公募資料で強要しなかったにもかかわらず「天竜杉のハイブリッド木質構造の採用」に努力したいと記してあることをはじめ、静岡の気候にあった外読書空間と内部との一体化や、静岡県を代表する植物（旧東海道、三保）の松林等、この場からの歴史や地域性を捉え快適さと関わるランドスケープデザインの導入など、静岡県の図書館をつくるという意志が全体に貫かれていました。また審査時、発表者の明確に話す姿勢から、これから設計してゆくのに大切な“コラボレーションのためのコミュニケーション”も重要ということを合わせ考え、22番を一番に決定しました。

2022年2月21日

審査委員長 長谷川逸子